

## プロ野球におけるメディカルサポートの現状と課題

正富 隆 (まさとみ たかし)

行岡病院 整形外科

阪神タイガース甲子園診療所 阪神タイガースチームドクター

プロ野球は大相撲に次いで古い日本のプロスポーツであるため、興行としての発展が先行し、メディカルスタッフは「如何に故障選手を（語弊はあるが無理矢理にでも）働かせられるか」を求められた歴史がある。当然、現在は「如何に故障させずに選手寿命を伸ばすか」という本来メディカルサポートとしてあるべき予防的観点がしっかりと取り入れられてきてはいるが、実際にはまだまだ「故障者を如何に早期復帰させるか」がその主体であることに変わりはない。傷害予防や選手の身体・健康管理のシステムについては、後発のテニスやサッカーの方がはるかに進んでいるのではないだろうか。

講演ではプロ野球におけるメディカルサポートの一例として、私が関わっている阪神タイガースにおけるシステムを示しながら、実際のゲームへの帯同状況や故障者への対応、トレーナーとの連携や現場スタッフ（監督・コーチ陣）との関係についてお話しし、私が知り得る限りの他球団の情報を交えながら現状について紹介したい。また遅ればせながら今年より導入された「脳震盪ガイドライン」や「脳震盪特例措置」、手探りの「コリジョンルール」など、「医学」だけで片付けられない現状や課題につき述べたいと思う。